熊本大学海外派遣留学生　報告書

氏名	0 さん		
所属	文 学部・大学院 コミュニケーション情報 学科・専攻		
留学先機関名	ニューカッスル大学　　（国名：　オーストラリア　　）		
留学先所属	■　特定の学部・研究科に所属（視覚コミュニケーション学部） □　特定の学部等に所属せず、様々な学部等の授業を履修 □　その他：		
留学期間	2019 年　2 月 ー　2019 年　11 月	留学開始時 学年	3 年次
奨学金	□　JASSO 海外留学支援制度　　□　国際奨学事業 ■　トビタテ！留学 JAPAN　【第 9 期】 □　その他（　　）		

１．出発前の準備について

ビザの種類	■　有　　□　無 種類(学生 VISA)	**ビザ申請先**	■　国内　　□　現地 場所(オンライン)
必要書類、手続き 手続きに要した期間	１日		
ビザ申請以外で 必要な事前手続き	OSHC への加入		
留学に向けて 取り組んだ語学	■　英語　　□　独語　　□　仏語　　□　中国語 □　韓国語　　□　その他（　　語）		
勉強方法	IELTS の試験勉強をメインに英語学習		
留学先の手続き (必要書類、大変だったこと、どのように取り組んだか等)	交換留学のため、大学職員の協力を得ることができた。		
事前の必要経費 (留学前に必要な支払い費用) ※概算費用	□　授業料　0 円　　■　寮費（ホームステイ手配）23,000 円 □　語学研修費　　0 円　　□　教材費　　0 円 ■　ビザ申請　　46,000 円 渡航費（■片道　□往復）　　100,000 円 海外旅行保険料　　78,000 円 ■　その他（　ＯＳＨＣ　）　52,000 円		

２．渡航～到着時の生活について

利用航空会社	シンガポールエアライン	**手配**	航空会社の公式 Web サイト ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 **※往路のみ**	福岡空港～シンガポール空港～シドニー空港～電車	**到着時刻**	9:00am 出発～翌日 5:00am 着 【※移動時間（約 30 時間）】
大学（寮）への移動手段	□大学手配の出迎え　□知人の出迎え　□タクシー ■公共交通機関（□バス　■電車）　■その他（ホストファミリー）		
空港から移動する際の注意点 **行き方、料金等**	電車を利用する際、空港利用料が$14 ほど加算される。2 人以上で移動する場合は、Uber や Ola など配車サービスがおすすめ。		
住居のタイプ	□寮　□アパート その他（ホームステイ）	**住居手配**	■大学の斡旋　□自分で その他（　　）
部屋の種類	■一人部屋 □二人部屋 その他（　　）	**ルームメイト**	■日本人学生 ■他国からの学生 その他（　　）
住居の申込手順	大学を通して斡旋		
住居でのトラブルおよび解決方法	特になし		
大学への交通手段 **（※費用がかかれば費用も）**	メインキャンパス：バス+徒歩で 30 分、 シティーキャンパス：バス＋徒歩で 40 分		
生活費および内訳 **（概算を円換算）**	生活費計　77,500 円／月 （生活費内訳） 住居費：　0 円／光熱費：　0 円／通学費：　3,000 円 食費：　0 円／通信費：　2,400 円／書籍代：　0 円 その他：（ホームステイ：光熱費・食費含む）72,000 円 ※学費・寮費以外に留学先大学へ納入するもの：　0 円 （徴収された費用の名目：　　）		
その他生活で必要な手続き、アドバイス **（口座開設、保険、携帯電話、荷物、支払い方法など）**	カード社会なので、半年以上の留学の際は学生口座開設無料のコモンウェルスバンクでデビットカード機能がついたキャッシュカードを作ると買い物の際にとても便利。安いＳＩＭカードは月 20 ドル～で、私はホストファミリーとの連絡に便利かつ、国際電話ができる Optus（$30/28 日）を利用していた。また、パブなどお酒が出るところでは、ＩＤの提示が求められるため、パスポートの代わりになる Photo ID を作っておくといい。海外旅行保険については、学生ＶＩＳＡの場合、医療保険であるＯＳＨＣに加入必須のため、個人加入は自賠責やフライトの保証のみの保険でＯＫ。		

３．留学先の大学について

授業（カリキュラム）の概要について	オンラインで申込、オリエンテーション初日に教員指導のもとで履修登録を行う。授業の１週目までは変更可能で、満席で取れなかった授業も数名履修を取り消した場合は、後日空きが出ることもある。
履修登録の時期 登録方法	□渡航前　■渡航後　⇒　（　2月頃） □オンラインで登録　□志願書類の提出 □その他（　　）
留学生特例措置（履修制限、優先措置、留学生専用のオリエンテーション、チューター制度等）	■有り（具体的には以下のとおり） ・留学生専用のオリエンテーション ・英語学習の支援プログラム □無し
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	学生サポートセンター常時開いており、困ったことがあれば何でも相談することができた。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	・学生証 ・履修登録 ・交通 IC カード(Opal card)の学割カード申込
授業外活動について（サークル、部活、インターン、フィールドワーク等） ※どうやって探したか、どのような活動か、入るきっかけなども具体的に	授業のあるキャンパスと、課外活動のあるキャンパスが遠く、さらにホームステイ先もどちらにも近くないため、参加を見送った。大学のホームページや授業で同じになった学生から連絡先を教えてもらうのがベスト。キャンパス内で急に話しかけられ、サークルに誘われることもあるが、宗教団体の可能性が高いので要注意。

４．一週間のスケジュールについて

（授業時間、課外活動、勉強時間等、毎日の生活について記入してください）

	月	火	水	木	金	土	日
7:00	起床	起床	起床	登校			
8:00				デザイン思考	起床	起床	起床
9:00	登校	登校	登校	デザイン思考			
10:00	タイポグラフィー	学生サポート	予習	制作	インターン課題	制作	制作
11:00	デザインの歴史		現代アート	〃	〃	〃	〃
12:00	パフォーミングアート	タイポグラフィー		〃	〃	〃	〃
13:00		タイポグラフィー	現代アート		〃	〃	〃
14:00	予習			予習	〃	自由	自由
15:00	〃	パフォーミングアート	デザインの歴史	〃	〃	〃	〃
16:00	デザイン思考	〃	〃	〃	〃	〃	〃
17:00					〃	〃	〃
18:00	帰宅	帰宅	帰宅	帰宅			
19:00	夕飯	夕飯	夕飯	夕飯	夕飯	夕飯	夕飯
20:00							
21:00							
22:00							
23:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝
24:00							

5. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）
留学先では、デザインをメインに学習し、実際にクリエイティブ業界で仕事をしている教員のもとでタイポグラフィーやグラフィックデザイン、アートなどの講座を受講しました。授業を通して、１番に感じたことは「否定をせず、受け入れる」ということでした。制作物がある場合、自分の制作物に対して、なぜこのようなコンセプトにしたのか、なぜこのデザインにしたのか、というプレゼンテーションを毎回行うのですが、教員からも学生からも分け隔てなく自分が感じた率直なフィードバックを得ることができ、どちらも否定をすることなく、良さを見つけた上でどう伸ばすか、といった観点での意見が多く、自信をもって楽しく制作に取り組むことができました。また、実際に社会に出てクリエイティブ産業に携わる上で欠かせない、期日・スケジュールを守る、ツールばかりに頼らず創造力を最大限に使う、一つの作品への努力を惜しまない、といった基本事項の重要性を実感することができました。
同じ大学へ留学を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）
私は、最近新しくできたNewSpaceというキャンパスで授業があったので、メインキャンパスにはあまり行かなかったのですが、学生イベントやサークルなどはほとんどそちらで開催されていたので、半年学内にある寮で過ごしてもよかったな、というちょっとした後悔があります。ですが、田舎にあることもあって（都会だと移民家族のもとでお世話になることが多いので）、ホームステイはオーストラリア人のリアルな暮らしに溶け込むことができました。色々と手続きをしなくてはならない最初の数ヶ月はホストファミリーの力を借りることができるホームステイを選択するのもおすすめです。留学先は、とても設備が整っていて、学習に最適な環境が準備されています。ホームページから、どんなサービスを利用できるのか把握しておくと、困ったときに便利です。ビーチの近い自然豊かな街で、じっくりと静かな場所で集中したい人にはぴったりだと思います。生活も、近くにスーパーやマーケットがあるので困ることはありません。あとは、オーストラリア英語に慣れておくと、最初からスムーズに会話できると思います。
留学を通しての感想
今回の留学では、自分の専攻科目とは離れたデザイン、アート、マーケティング、ブランディング等の講義を受講し、新たな知見を得ることができました。英語でコミュニケーションが取れようになる、ということもこの交換留学の目標のひとつでしたが、その英語を使って新たなことを学ぶ、という体験ができたことが一番の糧でした。英語を使えるとなると、得られる情報が膨大になり、使えるツールが途端に多くなります。デザインを起点に地方創生などの活動に取り組みたい私にとって、様々な観点から最適解を導くためのアイデアの引き出しが増えたとも言えます。また、オーストラリアでの暮らしは衝撃の連続でした。日本にはない様々なサービスが若者から高齢者世代まで浸透しており、特にシェアリングエコノミーに関するものは目を見張るものが多数ありました。私自身、卒業論文のテーマでもあるため、様々なツールを実際に利用してみて、日本で実現可能性が高いサービスを思いつき、会社や団体へサービス立案も行うことができました。今後は、このサービスを初め、オーストラリアで得た経験を日本での活動に還元していきたいと思います。